

小室哲也とKeikoの結婚の場合

実際の例として、小室哲也とKeikoが2002年11月22日に結婚した時の事例を見てみます。

Ke	MaR	Mo As	
	Komuro Tetsuya 1958/11/27 17:05 Tokyo D/1		
Sa Me	Su Ve	Ju	Ra

Ke	Me Sa	Ju	
	D/9		As Mo
MaR	Ve		Ra

小室哲也はラグナと月が牡牛座のため、7室の蠍座は2重の意味で配偶者を表します。

実際、2002年11月22日付近のトランジットを見てみると、綺麗に7室にダブルトランジットが形成されています。

		Sa	
	Four months before the Marriage 2002/7/17		Ju
	DT		

		Ra	SaR Mo
	Marriage 2002/11/22 12:00		Ju
	Su Me Ke		

まず、結婚の4ヶ月前に7室にダブルトランジットが形成され、次に土星は双子座に移動してから逆行して再び7室にアスペクトしたため、結婚したまさに2002年11月22日にもダブルトランジットが形成されています。木星はどちらの場合も7室に5番目のアスペクトをしています。

そして、さらに7室には太陽がトランジットしていましたが、太陽は自分自身を表しますので、まさにこの太陽が7室を通過した11月16日から12月15日の期間は配偶者、パートナーというテーマの時期だったことが分かります。さらにコミュニケーションの表示体である水星も7室をトランジットし、そして、ラーフ/ケートゥ軸も1/7室の軸と重なって、結婚というテーマについての衝動や変化を示していました。

これは分かりやすい例ですが、これは例えば木星が7室にアスペクトし、土星が7室の支配星にアスペクトしているような場合でも、同じ7室へのダブルトランジットとしてみなすことができます。